

目 次	
1. PKSの公開について	1
2. PROPATH (第6. 1版) の物質追加について	4
3. 第11回全国共同利用大型計算機センター研究開発連合発表講演会のお知らせ	5
4. VP講習会の開催について	7

1. PKSの公開について

10月2日より標記ソフトウェアを公開しました。PKS (Plotter Kernel System) は、Calcomp社製HCBS (Host Computer Basic Software) と互換のあるサブルーチンライブラリで、これで作成した図形は直接XYプロッタ装置やNLP, OPRに出力することができます。また、PKSにはPSP (Plotter Subroutine Library) 互換モードがあり、PSPを使ったアプリケーションをそのままPKS下で実行することができます。したがって、従来の方法である“RUN + NPLOTT”という2つのステップを踏まずに、PKSの1ステップで図形を出力することができます。PKSとPSPとの非互換は以下のとおりです。詳細については参考文献を参照して下さい。

- ・ 動作可能サブルーチン数

PSP互換モードのみ可能サブルーチン名: PLOTE, PFIELD, RDSCIS, WHERE, SET, OFFSET, PAGE

PKS標準モードで、上記サブルーチンを呼び出しても無効として処理を行うため、注意が必要である。

- ・ 文字のコード系が異なる (SYMBOLサブルーチン)。
- ・ エラー引数指定時のチェック方法が異なる。
- ・ KANJIサブルーチンの'text'の指定方法が異なる。

コマンドプロシジャPKS (TSS処理)

1) 入力形式

PKS データセット名
[GUNIT (論理機番 | 18)]
[GOUT (NLP | OPR | CLP | XYPLOT)]

[N L P (出力クラス | O)]
 [O P R (O P R 機番)]
 [S H E E T (A 4 L S | A 5 L S | B 4 L S | B 5 L S |
 A 4 P R | A 5 P R | B 4 P R | B 5 P R)]
 [C N T L (データセット名 | *)]
 [P S P]

2) 機能

P K S プログラムの翻訳・結合編集・実行を行い、指定された出力装置に図形を出力する。

3) オペランドの説明

データセット名

ソースプログラムが入っているデータセット名を指定する。

G U N I T (論理機番)

出力ファイル装置の論理機番を指定する。省略値は18であるが、P S P オペランドを指定した場合は1.6となる。

G O U T (出力装置)

図形を出力する出力装置を指定する。省略値はN L P。

N L P (出力クラス)

N L P の出力クラスを指定する。このオペランドは、G O U T で N L P を指定した場合にのみ有効となる。省略値はO。

O P R (O P R 機番)

D S P R I N T コマンドで指定するO P R 機番を指定する。このオペランドは、G O U T で O P R を指定した場合にのみ有効となる。

S H E E T (出力用紙種類)

O P R または C L P に出力する時の用紙を指定する。省略値はA 4 L S。C L P に出力する場合はA 4 L S、A 4 P R のみが指定できる。

C N T L (印刷編集指示パラメタファイル)

印刷編集指示パラメタの入力ファイルを指定する。*は端末から入力することを示す。省略すると印刷編集指示パラメタは指定されない。

P S P

サブルーチン群をP S P 互換で動作する。

4) 使用例

- 1) P K S を組み込んだプログラムを実行し、N L P に図形を出力する。

READY

P K S データセット名

- 2) P S P を組み込んだプログラムを実行し、O P R に図形を出力する。出力用紙をA 4 版ランドスケープとする。

READY

P K S データセット名 G O U T (O P R) O P R (O P R 機番) S H E E T (A 4 L S) P S P

カタログドプロシジャ P K S , P K S V P (バッチ処理)

1) 入力形式

P K S [, S T E P = { C | C L | C G O | C G | C L G | G O }]
 [, S Y S O U T = 出力クラス]
 [, O P T = { 0 | 1 | 2 | 3 }]

[, PRVLIB='データセット名']
 [, PKSOPT='PKSオプション']
 [, PROG=プログラム名]
 [, LOADDS='データセット名']

PKSVP [, STEP= {C | CL | CGO | CG | CLG | GO}]
 [, SYSOUT=出力クラス]
 [, PRVLIB='データセット名']
 [, PKSOPT='PKSオプション']
 [, PROG=プログラム名]
 [, LOADDS='データセット名']
 [, VREGION='基本リージョン, 拡張リージョン']

2) 機能

PKSプログラムの翻訳・結合編集・実行を行う。カタプロPKSは汎用計算機上で、PKSVPはベクトルプロセッサ上で実行する。

3) 記号パラメタの説明

STEP= {C | CL | CGO | CG | CLG | GO}

処理過程を選択する。PKSの省略値はCGO。PKSVPの省略値はCG。

C 翻訳のみ行う。

CL 翻訳, リンケージエディタによる結合編集を行い, ロードモジュールを作成する。

CGO 翻訳, 結合編集, 実行を1プロシジャステップで行う。

CG 翻訳, ロードによる結合編集および実行を行う。

CLG 翻訳, リンケージエディタによる結合編集, 実行を行う。

GO ロードモジュールを実行する。

SYSOUT=出力クラス

出力クラスを指定する。

OPT= {最適化レベル}

FORTRANの最適化のレベルを指定する。省略値は2。

PRVLIB='データセット名'

組み込みたい私用ライブラリのデータセット名を指定する。

PKSOPT=PKSオプション

PKSのオプションを指定する。省略値は, 'PKS(NLP, NOBUF)'。

PROG=プログラム名

実行するロードモジュールのメンバ名を指定する。このパラメタは, STEP=GOを指定した時のみ有効となる。省略値はMAIN。

LOADDS='区分データセット名'

実行するロードモジュールが格納されている区分データセット名を指定する。このパラメタは, STEP=GOを指定した時のみ有効となる。

VREGION='基本リージョン, 拡張リージョン'

ベクトルプロセッサで実行する時のリージョンサイズを指定する。

4) プロシジャステップ

① STEP=C の時 FORT

② " CL " FORT, LKED

③ " CGO " FORTCGO
 ④ " CG " FORT , LOADGO
 ⑤ " CLG " FORT , LKED , GO
 ⑥ " GO " PKSGO

5) 関連するDDD名

・FORT. SYSIN : ソースプログラム用 (①, ②, ④, ⑤)
 ・FORTCGO. SYSIN : " (③)
 ・LKED. SYSLMOD : ロードモジュール用 (②)
 ・GO. SYSIN : 実行データ用 (⑤)
 ・LOADGO. SYSIN : " (④)
 ・FORTCGO. SYSGO : " (③)
 ・PKSGO. SYSGO : " (⑥)

6) 使用例

1) PKSを組み込んだプログラムを実行し、NLPに図形を出力する。

```
// EXEC PKS,STEP=CLG
//FORT.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN . DD DSN=データセット名,DISP=SHR
//GO.FT18F001 DD SYSOUT=(O,KNGWTR)
```

2) PSPを組み込んだプログラムを実行し、OPRに図形を出力する。

```
// EXEC PKS,STEP=CLG,PKSOPT='PKS(PSP,A4LS,NOBUF)'
//FORT.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
//GO.SYSIN DD DSN=データセット名,DISP=SHR
//GO.FT16F001 DD DSN=OPR出力データセット名,DISP=(NEW,CATLG),
// SPACE=(TRK,(10,10),RLSE),UNIT=PUB
```

上記ジョブを実行した後、TSSで次のコマンドを実行する。

```
READY
DSPRINT OPR出力データセット名 OPR機番 DOC
```

参考文献

1. 計算機マニュアル, 富士通 PKS文法書 V10用 (99SP-7200-1), 富士通(株).
2. 計算機マニュアル, FACOM PKS使用手引書 V10用 (99SP-7210-1), 富士通(株).

(ライブラリ室 電(内)2508)

2. PROPATH (第6.1版)の物質追加について

9月18日(月)より第6.1版へバージョンアップされた標記プログラムに、以下の物質が追加されています。追加された物質のライブラリ・データセット名を示します。

重水 LIB. PD2OV61. LOAD

使用法の詳細については、前回のセンターニュースを御覧下さい。

(ライブラリ室(電)内線2508)

3. 第11回全国共同利用大型計算機センター研究開発連合発表講演会のお知らせ

標記講演会を下記のとおり開催しますので、奮って御参加ください。

記

日時：平成元年10月24日(火) 9:30~17:00

場所：東北大学 青葉記念会館

【オープニング】

9:30 ~ 9:35 挨拶

【午前の部】 (9:35 ~ 12:05)

- 9:35 ~ 10:00 学内センターの役割の変化と大型計算機センター
大阪大学大型計算機センター 片山正昭
- 10:00 ~ 10:25 大規模広域分散環境WIDEの構築
東京大学大型計算機センター 村井 純
- 10:25 ~ 10:50 国際電子メールサービスにおける
利用者登録の自動化について
東京大学大型計算機センター 青木泰憲
- 10:50 ~ 11:15 学術情報センターにおける電子掲示板システムの概要
学術情報センター 中尾 実
- 11:15 ~ 11:40 PC Communication in TAINS
東北大学大型計算機センター
グレン マンスフィールド
- 11:40 ~ 12:05 KUINSの基幹ループLANの機能について
京都大学大型計算機センター 櫻井恒正

【午後の部Ⅰ】 (13:00 ~ 14:40)

- 13:00 ~ 13:25 大阪大学大型計算機センターにおける
ワークステーション関連サービス
大阪大学大型計算機センター 下條真司
- 13:25 ~ 13:50 ターミナル・サーバ利用による無手順端末サービス実験
北海道大学大型計算機センター 吉井英一
- 13:50 ~ 14:15 フルスクリーン型端末のための
ネットワーク仮想端末F, N, V, Tの改訂
九州大学大型計算機センター 入江啓一
- 14:15 ~ 14:40 通信監視端末について
東北大学大型計算機センター 高橋洋一
- ***** 休憩 (14:40 ~ 14:55) *****

【午後の部Ⅱ】 (14:55 ~ 17:00)

- 14:55 ~ 15:20 Huffmanの方式によるファイル圧縮
大阪大学大型計算機センター 坂賀 力
- 15:20 ~ 15:45 共用ファイルのスペース利用効率の改善
名古屋大学大型計算機センター 高橋一郎
- 15:45 ~ 16:10 北海道大学大型計算機センターにおける
運用情報データベースシステムの構築
北海道大学大型計算機センター 折野神恵
- 16:10 ~ 16:35 漢字OCRを用いた全文テキスト・データベースの作成
京都大学大型計算機センター 堀池博巳
- 16:35 ~ 17:00 オブジェクト指向データベースにおけるデータ関連の表現
九州大学大型計算機センター 古川哲也

【懇親会】 (17:15 ~ 19:00)

4. VP講習会の開催について

標記講習会を下記の要領で開催いたしますので、受講希望者は、共同利用掛（電（内）2505）にお申し込み下さい。

記

- ・日 時 10月26日（木） 10時～16時
- ・受付時間 9時30分～9時50分
- ・対 象 FORTRAN77使用経験者で、VP（ベクトルプロセッサ）による高速実行を望まれている方
- ・募集人員 30名
- ・内 容 プログラムの高速化について
チューニングツール（会話型ベクトライザ）の使用法
ベクトルプロセッサの使用法
- ・会 場 大型計算機センター・多目的講習室（3階）
- ・講 師 研究開発部 部長 島崎 眞昭，第二業務掛 河津 秀利
- ・テキスト センターで用意
- ・時間割

10:00 12:00 13:30 14:30 16:00

プログラム の 高速化	チューニング ツールの 使用法	昼 休 み	VP の 使用法	実 習
-------------------	-----------------------	-------------	----------------	--------

- ・申し込み期間 10月12日（木）～18日（水）
（なお、募集定員に達し次第締め切ります。）

総井上、高田